



小国の風物詩… —阿蘇郡小国町—
土駄引馬…名前からしてこの玩具はなんとなくひなびていて素朴感があふれているのである。製品は殆んど杉の下枝でできており、小国杉の木肌の味をそのまま生かしている。作者の秋吉太平さんは、親代々からの林業経営者。小国地方では昔から、馬に丸太を引かせて奥山から木材を搬出しているが、この懐かしい習わしにヒントを得て、この「土駄引馬」が生まれた。

現在のところ、近所の気の合った青年たちの協力を得て、年間1万個を生産。しかし、需要に間に合わず、目下素朴な手づくりの味を失なわないでオートメできる機械を考案中だという。

杉の産地だけのユニークな民芸品ということで、現在は地元の杖立、黒川などの温泉地のほか、瀬ノ本高原、熊本市内のホテル、大分県などへ出荷されている。



上・奥山にゆけば機械化が進んだ今でも土駄引きの姿が見られる。



上・座敷いっぱい木馬の進行…製作は家族ぐるみで…



上・ホテルのみやげ品売場にもその素朴な玩具木馬が…



上・木馬の組み立ては、それ自体面白い造型作業

米部門の農業構造改善事業は、その成果の形態から二つのタイプに大別することができる。

第一は、地域の適地適産、主産地形成を目指す成長作目（主として畜産、果樹、やさいなど）の生産拡大をはかり、とする際、それに必要な労働力を確保するため、水田経営の省力化をはかり、成長作目の生産拡大によって農業所得の飛躍的増大が推進されるタイプ。もう一つは、一農家当りの水田経営面積が広く、農業収入の大宗が米の販売代金に依存している米どころの平野地域で、その地域の農業立地条件から、専ら水田経営の近代化、合理化により、労働生産性の飛躍的向上をはかり、雇傭労働力の排除によって、大幅に生産費を削減。また、労働力の他産業への流出に適応し、資本装備の高度化により、農業従事者一人当りの所得が増大して、他産業従事者と均衡した所得の確保をはかり、とすることをタイプである。

そこで、農業構造改善事業による米部門の対策は、土地基盤整備では、農道、用水排水分離の完備した大区画圃場整備事業を実施している。そしてその上に経営近代化施設として、春秋二期の労働ビークを切り崩すことができるよう、大型トラクターの導入によって乾田直播、湛水直播など革新技術の確立普及をはかっている。

さらに耕起整地作業の能率化を進め、

大型防除機械の導入によって共同防除の徹底、又、コンバイン、ライスセンターなどの設置によって刈取、脱穀、乾燥、調整作業の省力化などをおし進める機械化一貫作業体系の確立がキーポイントとなる。以下、その拠点ともいえるべき先駆的事例を二、三紹介してみることにしよう。

■玉名市上小田地区 △大区画圃場整備及びトラクターの導入と運営▽

この地区の水田圃場整備事業は、昭和三十八年度施工されたもので、水田の省力化をはかり、牛乳、養鶏、養蚕などの

生産拡大で農業所得の増大へ

作目の拡大を意図して計画された地区である。

受益農家戸数九十八戸、面積四十六・四七畝で総事業費三千四百万円、十町当り七万三千円である。区画は長辺二百畝、短辺五十畝、したがって一区画一畝で、用排水路は分離され、幹線道路六畝、支線道路三・五畝で、大型機械が充分機能を発揮できるように設計されている。

トラクターは、玉名市農協が事業主体となり、三十五P S二台、及び付属作業機を導入し、上小田地区農家群九十八戸と十年間の専属利用契約を結び、耕地面

積割合による負担金及び、利用料金徴収によって運営されている。

■清和村農協共同稲乾燥調整施設 △ライスセンター▽

この施設は、昭和四十年一カ所（第一ライスセンター）昭和四十二年に第一ライスセンターのみでは処理しきれないので計画変更によって一カ所（第二ライスセンター）が設置され、稲の処理量は、四十年一カ所一萬五千七百三俵、四十二年一カ所二萬六千五百俵、四十二年度は二カ所、三萬八千二百九十七俵となり、収支差引においても百九十八万五千円の黒

字を出し、驚異的な実績を収め、本県大型機械化のパイロットとして、注目されている。

■中球磨五カ町村の農業構造改善

免田町、上村、岡原村、須恵村、深田村の一町四カ村は、自然的、社会的、経済的条件を同じくする経済圏を形成しており、農業振興の遅れから脱却する共通の目標、事業推進の場における町村間の調整の円滑化、投資効率の向上などの見地から、農業構造改善事業組合を設立し、二千二百二十二畝の農圃地整備事

業を推進している。さらに取り残された耕地の圃地整備、農地（飼料畑）造成など土地基盤整備事業、並びに、これら事業に関連するトラクター、コンバイン、ライスセンターなど経営近代化事業、更に基幹作目である乳牛、肉用牛などの導入、養蚕、壮蚕飼育などの設置をはかる計画とし、第一次事業は昭和四十二年から四十四年度まで、第二次事業は、四十四年度から四十五年まで実施する計画である。

この地区の機械化の構想は、関連事業を合わせてトラクター六十台、コンバイン四十台、ライスセンター三カ所、カン

トリーエレベーター一カ所で、これ等資本投下によって省力化された労働力を、基幹作目の拡大に振り向け、

（農業構造改善課）

□次号予告□

広報くまもと二二二号は、交通事故防止のためのキャンペーンを特集。交通事故の分析、被害の実態などを実際的にとりあげ、交通戦争をなくすにはどうしたらよいか、問題の提起と、その対策についてふれてみる。

編集部